

平成 22 年 6 月 18 日現在

研究種目：基盤研究（C）
 研究期間：2007 年度～2009 年度
 課題番号：19590647
 研究課題名（和文） 島嶼県沖縄における保健看護職者間のテレ・ファシリテーションに関する研究
 研究課題名（英文） A study on the e-facilitation among the nurses in Okinawa Islands
 研究代表者 金城 芳秀
 （ KINJO YOSHIHIDE ）
 沖縄県立看護大学・大学院保健看護学研究科・教授
 研究者番号：40291140

研究成果の概要（和文）：

本研究における離島地域の看護職者は、地域での実践を通してコンピテンシーを磨いてきた。これら看護職者は IT アプリケーションを活用する研修を能力開発の新しい機会として意欲的に受け止め、業務の持続的な改善につながる学習ニーズを示した。遠隔交流自体が初めてでなじみが薄かったにも関わらず、参加者間あるいはファシリテーターとの間の交流が展開された。われわれが生涯教育の視点からアクセスの容易な ICT 環境を提供できるならば、看護職者間でのテレ・ファシリテーション関係が促進されると期待できる。

研究成果の概要（英文）：

In this study, the nurses in the remote areas of Okinawa Islands have developed the competency through local practices. As one of new chances for competency development, they have positively accepted the seminar with IT application, and expressed the learning needs linking to continuous improvement. Although they were not familiar with the facilitation via Internet, they developed the communication among the participants or between the participants and the facilitator. If we are going to provide ICT environment with simple access from the point of continuing education, the e-facilitation relationships among the nurses would be encouraged by themselves.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
平成 19 年度	900,000	270,000	1,170,000
平成 20 年度	1,100,000	330,000	1,430,000
平成 21 年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
総計	2,800,000	840,000	3,640,000

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：社会医学・公衆衛生学・健康科学

キーワード： 地域保健、ファシリテーション

科学研究費補助金研究成果報告書

1. 研究開始当初の背景

われわれは沖縄県のいくつかの離島・へき地における看護職者と共に、メディアリテラシーと遠隔教育に関する総合的研究を実施した（平成 14～16 年度科研費：金城芳秀，2005）。その過程では、科学的な根拠に基づく保健医療活動を目指して、インターネットによる情報発信やメール等による情報交換を看護職者と共に展開してきた。しかし、多忙な現場では、1) 論文を批判的に吟味するための時間的余裕がないこと、2) 研究の活用が実践の改善に役立ったという経験があまりないこと、3) 実践を変えたくてもそのような権限が与えられていないことなど、理想と現実との間にかかなりのギャップがあることが分かった。加えて、離島・へき地の看護職者においては、1) 文献データベース、専門誌・図書などにアクセスする環境・資源が乏しいこと、2) 研究の活用という組織的な取り組みが不足していること、3) コンピテンシー（看護能力）の一つである批判的に思考する能力や知識を統合する能力が不足していることなど、ヘルスケアの質の改善に関係する今後の課題を明らかにした。

2. 研究の目的

本研究では、2007 年度からの 3 カ年で、離島・へき地の看護職者が求めているコンピテンシー（看護能力）の向上を踏まえて、インターネット上に“学びの場”を構築することを通して、1) これまでに看護職者が磨いてきた専門的な知識・技術は何か、2) 今後改善したいヘルスケアシステムは何か、そのためにはどのような能力開発が必要か、3) 今回、試行する看護職者間のテレ・ファシリテーションの実行可能性を明らかにする。ここでいうテレ・ファシリテーションとは、県内の離島・へき地に勤務する看護職者間で課題の共有化と明確化を行い、その後、インターネット上で継続的に議論を促進すること（e-facilitation）を想定している。このように、専門職者間で当事者意識を共有することから、共通目的である「住民の健康問題の解決」を再確認することは、離島・へき地における看護職者の能力開発に貢献できると考える。

3. 研究の方法

（2007 年度） 県内離島の看護職者の環境（ICT(Information and Communication Technology)環境、教育環境、組織内環境）に関する既存資料調査を含めた現状調査を行う（図 1 参照）。

（2008 年度） 県内離島の看護職者を有意抽出し、「沖縄県離島で求められる看護能力」

に関するグループインタビューを行う。また、看護師を対象に、院内看護研究に関する意見交換会を試行する。

（2009 年度） 前年度に実施した 3 職種（看護師、保健師および助産師）に対するフォーカスグループ・インタビューの録音資料（逐語録）から、さらにテキスト分析を深め、潜在的なヘルスケアシステムの改善の必要性を明らかにする。また、前年度の意見交換会をふまえ、臨床現場との協働として、看護研究の計画から発表までの研究プロセスに係るファシリテーションを実施する。さらに、看護職者を対象に遠隔システムを利用した研修機会を設け、テレ・ファシリテーションを試行する。

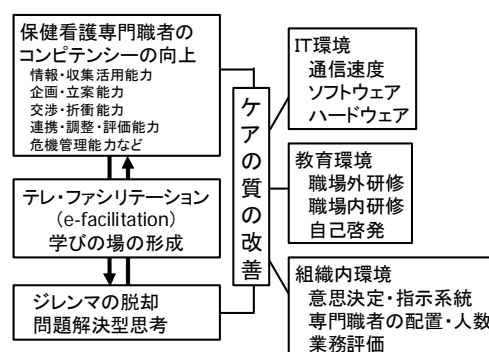


図 1. 離島・へき地における専門職者間のテレ・ファシリテーション

4. 研究成果

（2007 年度） 看護師や助産師の離職に関する国内文献は散見する程度で、研究結果の蓄積はなかった。保健師については、沖縄県福祉保健部（1999）が離島・へき地での過重負担を指摘してきた。しかし、保健師を含め看護職における仕事満足度の測定研究の不足があるため、離島の看護職者が置かれている環境が離職にどのように影響しているか、情報不足であることが分かった。なお、沖縄県福祉保健部資料では、県内離島・へき地町村の現状として、保健師の 85%が入職後 3 年以内に離職し、1999 年以降、離職率は 16%～39%の間で推移していた。

看護職を対象とした IT 環境や教育環境などに関する本調査に向けた予備的研究として聞き取り調査を実施した。その際、沖縄県有人離島の人口規模から有意抽出を行い、5 万人規模の一離島から保健看護職者 7 人（病院、保健所、訪問看護等）、5000 人規模から保健師 1 人（複数体制）、500 人規模から保健師 1 人（一人体制）に対する半構造化面接をそれぞれ行った。今回の 3 島では、ADSL と同等またはそれ以上の通信環境を職場内に有していることが分かった。しかし看護職者からその情報を得ることはできなかった

ため(他職種への問い合わせが必要)、質問紙調査において、IT 環境関連の質問項目は適当でないことが示唆された。職場内外の研修機会は予算上も人的資源上(勤務交代が困難)も制限があり、年休・自費参加であっても高めたい能力は、1) 新しい法・制度(施策)への適応能力、2) 計画・実施・評価(PDCA サイクル)の評価能力、さらには 3) 統計学的なデータ解析力としていた。実際、研修会や学会等への参加は自己負担も多いため、地元で受講可能な生涯学習の機会を求めていることが分かった。なお、組織内環境についての関心は低く、今回の対象者から十分な情報を得ることはできなかった。

CMS(Content Management System)やインターネット会議システムに関する現状調査として、専門家から技術的知識の提供を受けた。その結果、大学側と離島の医療施設間をVPN(Virtual Private Network)で結び、学内 LAN(Local Area Network)を安全に拡大することがコスト・パフォーマンス上で優れていること、離島の看護職者が大学の学習資源を有効に活用できる可能性が高いことが分かった。

(2008 年度) 県内 A 離島から看護師(4 名)、保健師(5 名)ならびに助産師(3 名)を有意抽出し、職種別に「これまで磨いてきた知識・技能、さらに磨いていく必要がある知識・技能、そこにはどのような環境が必要か」に関するグループインタビューを実施した。質的分析として理論的コード化から得られた【概念】は、看護師では、【医療依存的な家族を接遇する】【文献的な学習経験を重ねる】【記録に残すために様式を変更する】【ケアを統一するために伝達する】【退院後の在宅ケアを調整する(在宅酸素、透析と台風・停電など)】であった。

保健師では、【保健指導ができる相手を見分ける】【保健師のつなぎ役的存在を知らせる】【研修に自費参加してモチベーションを維持する】【対人サービスの悩みどころを見極める】【終わりが無い仕事(保健)との付き合い方を探す】【知識・技術の共有で不安から生き残る】であった。

助産師では、【自分なりに助産を探求する】【妊婦が抱く自宅産イメージを捉える】【指導が必要な妊婦・褥婦との距離を工夫する】

【妊婦のストレス対処行動を察する】【いい助産経験の教育システムを創出する】であった。なお、3 職種で強調されたニーズは、《地元での研修機会の増加》であり、その具体的な内容として、〈看護研究のプロセスに沿った指導・助言〉や〈新しい看護理論の解説〉が求められていた。この学習ニーズは継続教育(生涯学習)の面からも優先すべき課題と考えられた。

(2009 年度) ファシリテーション環境の実践的な課題を明確にするために、看護現場との協働を実践した。第一は、院内看護研究として、看護師 4 グループ(1 グループ 3~5 人)において、約 8 カ月間を通して、「看護研究の計画から研究発表まで」を実施した。実際に面談協議するだけでなく、e メールを用いた意見交換を実施した。結果的に各グループから指導・助言を求められた点は、看護現象という概念、リサーチ・クエスションの絞り込み、文献の検索方法とその入手経路、効果的な図表の作り方、統計手法の解説、目的と結果と結論の一貫性、などであった。

離島 B では、看護職者 10 人に対する文献検索セミナーを実施した。後日、出された疑問点に対応して、有用なウェブ情報の提供やウェブ・アプリケーションの活用法に関する簡易マニュアルを作成・提供した。今後も継続的にフィード・バックを行う予定である。

離島 C において、看護職者を対象に ICT に関する遠隔セミナーを 2 回実施した(各参加者は 10 人、14 人の計 24 人)。その際、インターネット電話サービス SKYPE の活用法、本学の遠隔教育システム(講義、会議または個別指導が可能)のデモンストレーションなどを取り入れた。参加者の多くが ICT は初体験であったが、業務の改善や看護研究の指導など、多彩な活用法が期待できるとの指摘がなされた。すなわち、ファシリテーターとの個別相談が可能で、参加者間で相互交流が可能な ICT 環境の価値を直感的に理解したことがうかがえた。今後、看護職者間での自立的、共助的な学習環境をさらに促進するためには、自由にアクセス可能な ICT 環境を、大学等の生涯教育機関が継続的に提供する必要性が示唆された。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 3 件)

知念真樹, 池田明子, 金城芳秀: 保健師の仕事上の転機に伴う判断のよりどころ—沖縄県内の行政機関に勤務する保健師を対象とした質問紙調査(2006)から—沖縄県立看護大学紀要 11:15-23, 2010.

照屋理奈, 金城芳秀, 池田明子: 救急初療の場における看護師の初期アセスメントに関する研究-K病院における中堅看護師のインタビューから-. 沖縄県立看護大学紀要 10: 45-53, 2009.

金城芳秀: 離島地域看護師の大学院教育ー遠隔講義システムを活用してー. Nursing Today Vol. 32, No. 2, 2008.

[学会発表] (計 3 件)

近藤智子、比嘉かおり、金城芳秀: 男性看護師の職務満足度に関する研究 -A公立病院の全数調査から-. 第 38 回日本看護学会 看護総合, 2007.

金城芳秀: ケースメソッド的ファシリテーション第 66 回日本公衆衛生学会総会, 2007.

知念真樹、金城芳秀: 保健師の仕事のよりどころのバラツキと理想の保健師タイプとのギャップ. 第 66 回日本公衆衛生学会総会, 2007.

[図書] (計 0 件)

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

○取得状況 (計 0 件)

[その他] なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者 金城 芳秀

(KINJO YOSHIHIDE)

沖縄県立看護大学大学院・保健看護学研究科・教授

研究者番号: 402091140

(2) 研究分担者 清水かおり

(SHIMIZU KAORI)

沖縄県立看護大学・看護学部・助手

研究者番号: 10284663

(3) 連携研究者 なし

(4) 研究協力者

横山美帆: 小児科看護師のコミュニケーションスキルと職務ストレスとの関係 (沖縄県立看護大学卒業論文集録, 2007 年度)

高木絵梨香: 看護師の交代勤務に伴う睡眠状況と対処方法に関する研究 (沖縄県立看護大学卒業論文集録, 2007 年度)

菅 力也: 小児看護領域における男性看護師の必要性とその役割に関する研究 (沖縄県立看護大学卒業論文集録, 2007 年度)

儀間麻子: 大卒臨床 2~3 年目の看護師の学習ニーズと成長・発達課題 (沖縄県立看護大学大学院 修士論文, 2007 年度)

赤嶺陽子: 女性看護職者が子育てと仕事を両立させるために必要な要因 (沖縄県立看護大学卒業論文集録, 2008 年度)

小渡絢子: 病棟看護師の糖尿病患者の感情的負担に関する研究 (沖縄県立看護大学卒業論文集録, 2008 年度)

高良みなみ: 臨地実習における病棟看護師のケアリング (沖縄県立看護大学卒業論文集録, 2008 年度)

川満愛里: 患者及び看護師が思い浮かべる“理想的な看護師に関するイメージ”の比較 (沖縄県立看護大学卒業論文集録, 2008 年度)

山川将人: 重症患者家族に対する ICU 看護師の関わり (沖縄県立看護大学卒業論文集録, 2008 年度)

玉城広太: フライトナースに必要な役割・能力についての質的研究 (沖縄県立看護大学卒業論文集録, 2008 年度)

瑞慶覧葉月: 緊急の下肢切断患者に対する看護師の関り (沖縄県立看護大学卒業論文集録, 2009 年度)

久高 舞: チーム力に関連する救急外来看護師のストレス (沖縄県立看護大学卒業論文集録, 2009 年度)

田島瑞穂: がん看護補完代替療法の遠隔セッションを通じた看護師の反応と実践への応用 (沖縄県立看護大学大学院 課題研究, 2009 年度)